

未来投資会議 構造改革徹底推進会合  
「健康・医療・介護」会合第4回

# データ利活用基盤の構築等

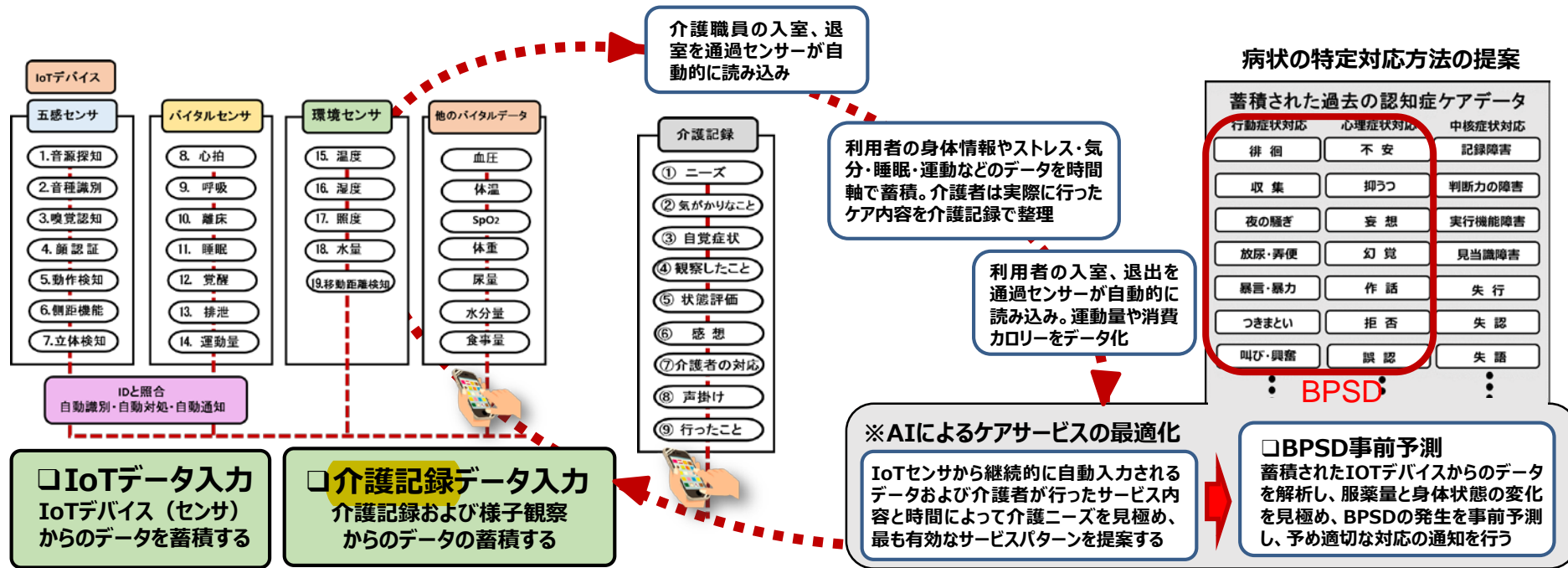
平成30年3月9日

厚生労働省、総務省、文部科学省、経済産業省

# 認知症対応IoTモデル(H29)

厚生労働省、総務省、文部科学省、経済産業省「データ利活用基盤の構築等」未来投資会議  
構造改革徹底推進会合「健康・医療・介護」会合(第4回)資料4、平成30年3月9日

提案者	特定非営利活動法人ASP・SaaS・IoT・クラウドコンソーシアム(代表)、高知県、高知市、一般社団法人認知症高齢者研究所、株式会社日本ウェルネスソリューションズ、 <b>国際医療福祉大学</b> 、医療法人恕泉会、社会福祉法人ふるさと会、株式会社NTTデータ
実施地域	高知県高知市(横浜、塚ノ原、春野町)高知県いの町中迫地域
事業概要	IoTデバイス(バイタル・環境)、音声・タップ入力(介護記録)された情報を処理し蓄積された過去の認知症ケアデータと相関(※AI)を求め、認知症の症状の特定を容易かつ的確に行い、顕著にみられる特有の行動・心理症状(BPSD)の適切な対応方法を事前予測し介護者に提案する。 これらにより①認知症高齢者へのよりの確な対応②症状緩和③介護者の負担軽減を実現する。 ※(特許題419300号)情報処理方法プログラムおよびデータベースシステム 認知症ケア学会 石崎賞3回受賞



この介護記録に「生活支援記録法」が採用されています。